

令和6年度山形県公私立高等学校協議会の概要

1 日時

令和7年1月17日（金） 午後1時15分から午後3時まで

2 場所

山形県自治会館 602会議室（一部委員はオンラインで参加）

3 出席者 ※敬称略

出席委員6名

玉手英利、九里廣志、森本真紀、花屋道子、渡辺伸子、佐藤由佳

4 報告

（1）令和6年度公私立高等学校の入学状況について

- 令和6年度公立高等学校の入学状況、私立高等学校の入学状況について説明（事務局）

5 協議

（1）公私立高等学校の収容定員について

- 今年度の収容定員の状況について説明（事務局）
- 私立高等学校の収容定員の考え方等について発言（私学代表委員）

《意見の概要》

- 最近7：3の比率がくずれてきているが、これからの社会を生き抜く、力を持ったたくましい子供たちをどうやって育てていくか、公立・私立一緒になって考えていかなければならない。
- 公私立高等学校協議会とは別に公私立間で今後、意見交換していくことを検討していく（事務局）
- 指定校推薦や校舎の綺麗さ、オープンスクール、友達関係や自分の意志など中学生が進路を選ぶ際の考え方が多様化している。ほとんどが大学進学を希望しているので、中学校の現場ではそこを見据えた指導が大事になってくると考えている。
- 大学進学率が高いと報道されているが、地方ではまだまだ低い。経済格差と教育格差は連動しているような状況にあり、経済支援と教育支援双方進めていく必要がある。進学を希望する生徒に対する経済的支援をさらに充実していただきたい。

（2）不登校生徒への支援について

《意見の概要》

- 中学校1・2年生からオープンキャンパスに参加できれば、高校の生活をイメージしやすく、入学後のミスマッチが防げる。また、不登校になった場合に勉強の遅れが心配だと思うので、授業をオンラインで受けられるなど、体制作りをぜひお願いしたい。加えて、地域の人も含めてサポートできる体制をお願いしたい。
- 不登校生徒の支援は、一部の先生に負担がかかりやすい。生徒を支援する仕組みが破綻しないために、支援者が支援される枠組みが大事。

勉強の遅れに関して、補強する仕組みとしてオンラインがあるのは良い事。また、オンラインを通じて、社会的に人と繋がっていることも大切である。

- 不登校生徒の健康診断の積極的な支援など、健康管理についても配慮が必要。また、不登校生徒を支援する先生方全体が、スキルアップできるような機会を設けていくことが必要。

子供達が出ていく社会は適度にオンラインを併用した社会になると思われる。オンラインを活用しながら、対人関係も築くことができる子供達を育成していくことができればよいのではないか。

- 進学は生徒にとって、リセットできるチャンスである。こうした機会を活かすためにも、早期のオープンキャンパスの実施など、生徒の希望と学校の不マッチを防ぐ手立てが必要。

メンタルヘルスに関して、生徒の指導にあたる先生の負担が非常に大きい。横のつながりが必要。小中高各段階の教育機関が連携して不登校問題にあたるべきと感じた。

以上